（日曜水）日十三月九年八十二和昭　　小樽商大線丘緑新聞　　（昭和25年8月15日第三種郵便物認可）　　（1）　第一十五百二号

緑丘新聞

発行所
小樽商科大学緑丘寮組合
小樽市稲穂町五丁目番外地
TEL. 4060
購読料　一年 200円　半年 100円

樂観許さぬ就職戦線

岡本学生部長談

▼経済界の動きを敏感に示す求職者の就職は前部門比較と総論の大盤▲
▼言切り、採用者大幅増の推せん類目指定の就職など今年もまた慌しい▲
▼就職戦線が準備続きそうだ。（編集部）

来る新年の就職に関しては現在既に各方面から色々な観測が行われているが、今年つまり昭和二十五年度の卒業生はいても二年度、三年度の卒業生の動向を決定するものであろうが、九月二十六日に開催された「北海道地区学生就職協議会」において協定された就職試験開始期日は十月一日と決定されて居り、大学側の就職指導方針もこの期日を目標として進められている。

今年度からは、以前の学生課委員会中心の大学祭の開催から、新に二部学生の大学祭とするために、学生代表、学生課長より成る大学祭開催準備委員会を作り、大学祭の開催に当っている。

昨年度開かれた大学祭は、以前の外国人の大学祭から、外国人の大学祭とは全く異つたものに変つてきている。

自治庁通達

撤回署名運動を展開

二日から市内数ケ所で

自治会は、二十五日以来自治庁の部落制に関して発行委員会に反対する署名運動を行なうことを決定した。

この署名運動は、自治庁の通達に関して発行委員会に反対する署名運動を行なうことを決定した。

今回は、初めての試みとして「平和を守るために」という共通のテーマによる総合展示が行なわれる。

大学祭プログラム確定

十月十六日（金）
ゼミ討論会、前期祭、開校と新聞
十月十七日（土）
前期祭最終日、仮装
十月十八日（日）
民人協議会、前期、映画

第三回 大学祭構想進む

全学連第三回中央委員会

學園復興斗爭を討議

大學を本來の姿に

第三回全学連中央委員会が九州大学で開かれ、今後の学生運動をどう展開するかについて討議した。

六月大会以後の学生運動の動向については、全国的にもり上った平和擁護の気運、講和問題、米軍駐留の問題、特に学生運動が、今まで右翼に押えられ、特に学生運動のない会社に就職した点、教授の態度などが問題とされた。

今次中央委員会でも特に心に対立されたのは学園問題である。

即ち学園を「開放している」かどうかが問題とされ、学園復興斗爭を学園の民主化と学生の自治を守ることに置くことに決定した。

その他、私学問題、学園整備などの問題が討議された。この日程的な為展を計る為め十一月八日、全国学園復興会議が開催され、また日本学生学術会議が十二月八日に行なわれることが決定された。

野球大勝す

―秋季対北大戦―

第十一年の伝統ある対抗の野球戦は九月二十三日、北大を中心にして行われた。この日程は各々四回名をもち、ストーム、柏甲と豪華な投球陣を揃えた。

論説　自治總通達をめぐつて　一

二十五日、岡田自治庁長官は「今年の選挙権は義田にあるという出発行選挙は無効があるので、近く期間にそういう保証選挙を出すようもと」と発表した。

この発表を聞くや否や、この通達は大きな波紋を投げた。

この発表を聞くや否や、この通達は大きな波紋を投げた。

この発表を聞くや否や、この通達は大きな波紋を投げた。

初出場にて優勝

全国バトミントン大会

第三回全学連中央委員会　一
学園復興斗爭を討議　一
大學を本來の姿に　一
野球大勝す　一
―秋季対北大戦―　一

勤務と研究の板ばさみ

教師側の理解まだ足りず

相談窓口の設置を

正美

後援会

短大の現状白書

「社会に出て見て」

卒業生の声

マルサス研究の大家

吉田秀夫君を悼む

大平先生逝く

焦点

雁

現代の句いがつまって

教師の展示会

短大の現状白書

「社会に出て見て」

卒業生の声

マルサス研究の大家

吉田秀夫君を悼む

大平先生逝く

焦点

雁

現代の句いがつまって

教師の展示会

小樽高商前一番館
TEL 2222